

# 来週の「売り物記事」はこれ

2019年2月15日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## ハンセン病 歌で寄り添う

シンガー・ソングライター 沢知恵さん

17日(日)



シンガー・ソングライターの沢知恵(ともえ)さん(48)＝写真＝は、高松市の離島・大島の国立ハンセン病療養所「大島青松園」で毎年コンサートを開き、島外から参加者が駆け付けます。

教師として赴任した熊本でハンセン病患者を支援する英国人と交流した祖父、戦後初めて宣教で渡韓し、同園にも足を運んでいた牧師の父。親子3代で患者に寄り添い、彼らが生きた証しを継承しようとする足跡をたどります。筆者は高松支局の岩崎邦宏記者です。



## それホント? 仕事と介護、55%が両立

サラダぼうる面 18日(月)



高齢化が進む中、働き盛りの年代で突然、親などの介護に直面するケースが少なくありません。

政府の就業構造基本調査によると、親などを介護している15歳以上人口は2017年に628万人と、12年より70万人増。このうち仕事と両立させている人は346万人(55%)に上りました。

大手損害保険会社の管理職のケースを紹介しつつ、働き方をどう見直すかを考えます。

## 「ツイッターの妖精引退」宣言した女優 春名風花さん

夕刊特集ワイド 18日(月)

ツイッターのフォロワー数が18万人以上にのぼる女優の春名風花さん。9歳のときから「ぼく」の一人称を用いて、いじめなど社会問題について発言してきましたが、18歳の誕生日を迎え「ツイッターの妖精をやめます」と宣言し、話題を呼んでいます。

SNS上で顔の見えない匿名の人間の悪意にさらされながらも、言葉による膨大な数のやり取りを重ねてきました。そんな「ツイッター歴9年」の日々は、今の演技に、どうつながっているのでしょうか。春名さんにじっくり聞いてきました。

## 狙われる遠隔監視カメラ

くらしナビ面 19日(火)

介護しているお年寄りの様子や愛くるしいペットの姿を、外出先から簡単にチェックできます——。そんな遠隔監視がインターネット経由で可能な「ネットワークカメラ」の人气が高まっています。

お手ごろ価格で利便性が高い反面、ネットにつながっているためサイバー攻撃の対象になりやすいことは、あまり知られていません。購入時や使用時の注意点を紹介します。



## 衣 ファッション シックなデザインに遊び心

くらしナビ面 19日(火)



この春から入学や入社で新しい生活を迎える子どもや孫にネクタイを贈りたい。そんな時、どんな色や柄を選べばいいのか悩む方も多いかもかもしれません。

ネクタイ1本で印象はガラリと変わります。紺色のストライプ柄、えんじ色のドット柄、イタリア製のシルク100%などなど、贈り物として選ぶ際のポイントを「阪急メンズ東京」(東京都千代田区)で聞きました。

## 【論点】山手線新駅名から考える 「名前」は誰のものか

オピニオン面 20日(水)

JR東日本の山手線に誕生する新駅が「高輪ゲートウェイ」と名付けられることになり、インターネット上などで不評を買いました。近年、名前の漢字から読みを想像するのが難しい「キラキラネーム」の流行があり、市町村合併でひらがなの地方自治体名も生まれました。

「名前」が帯びる公共性に揺らぎが出ているのでしょうか。名前と社会の関係を考えます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



## エスカレーターの片側空けと障害者

医療・福祉面 20日(水)

左右いずれかの片側を、歩く人向けに空ける習慣が根付いているエスカレーター。2020年東京五輪・パラリンピックを控え、体の不自由な人への配慮や事故防止の観点から、止まって乗るよう呼びかける動きが広まっています。

片側空けには賛否が分かれるのが現状ですが、理解を広めようとする動きを追いました。

## 日本人の祖先の渡航再現、今夏いよいよ本番

科学面 21日(木)



われわれの祖先が日本列島に渡来したルートはおもに3つあると考えられています。このうち、約3万年前にユーラシア大陸から台湾、琉球列島を伝って舟で渡って来た航海を再現するプロジェクトが国立科学博物館などの研究チームによって進められています。

どんな舟を使ったのか、2016年からさまざまな検討を重ねた結果、草を編んだ草舟や竹を組んだ竹いかだではスピードが出せず、黒潮を横切ることは難しいことが分かりました。

当時の地層から出土している石器を使って木を切り倒し、丸太をくりぬいて作った丸木舟=写真=を使い、今年6~7月に台湾から沖縄・与那国島に渡る実験航海が予定されています。

大型図版を使って、プロジェクトの詳細を紹介します。